

予測困難な時代に、人間は何を学ぶべきか？

AIの台頭とVUCA Worldにおける、教育の本質的な問い

技術は指数関数的に進化し、社会はかつてないほど複雑化しています。

このような時代において、**次世代が真に豊かで幸せな人生を築くために不可欠な能力とは何か。**

本プレゼンテーションでは、その答えが「**音楽教育**」の中に存在することを示します。

未来を切り拓く鍵は、AIには代替できない「人間らしさ」



感性 (Sensitivity)

美しさや人の心の機微を感じ取る力。
イノベーションの源泉。



創造性 (Creativity)

新しい価値や文化を生み出す力。
未知の課題を解決する原動力。

論理的思考や情報処理能力においてAIが人間を凌駕する一方、人間ならではの感性や創造性は、暮らしや社会を幸せにするイノベーションを支える基盤となります。これらの能力は、特定の職業だけでなく、あらゆる分野で無限の可能性を発揮します。

その答えは、新しいものではない。 人類の叡智にこそ、原点がある。

「人間らしさ」を育む教育の重要性は、現代になって初めて語られたわけではありません。
古代の哲学者たちは、すでにその本質を見抜き、教育体系の中心に据えていました。
音楽は、いつの時代も人間性の涵養に不可欠な要素として存在してきたのです。

西洋哲学の礎： 音楽は「徳」を涵養し、 人間を完成させる

アリストテレス (Aristoteles)

「音楽は、遊戯や休養、徳の涵養、高尚な楽しみにおいて有用である。その中で、徳の涵養こそが教育の最も重要な目的目的である。」

”



リベラル・アーツ (Artes Liberales) の起源

- 古代ギリシャの「ムーシケー (mousike)」(詩・音楽・舞踊の統合) に源流を持つ。
- 古代ローマでは、音楽は算術・幾何学・天文学と並ぶ「自由七科」の一つとして、人間を自由にするための学問の中核をなした。

東洋思想の到達点： 学びは「音楽」によって完成される

古代中国においても、音楽は単なる娯楽ではなく、人格を陶冶し、社会の調和を保つための必須教養と見なされていました。これらの東西の哲学は、その後の歴史に大きな影響を与え、音楽の学びの意義に関わる原点となっています。

孔子 (Confucius)
「教育は、詩(詩経)に始まり、
礼(典礼)を学び、礼(典礼)を学び、
最後に音楽を学ぶことによって完成する。
によって完成する。」





そして今、世界の最先端が この「古代の叡智」に 回帰している

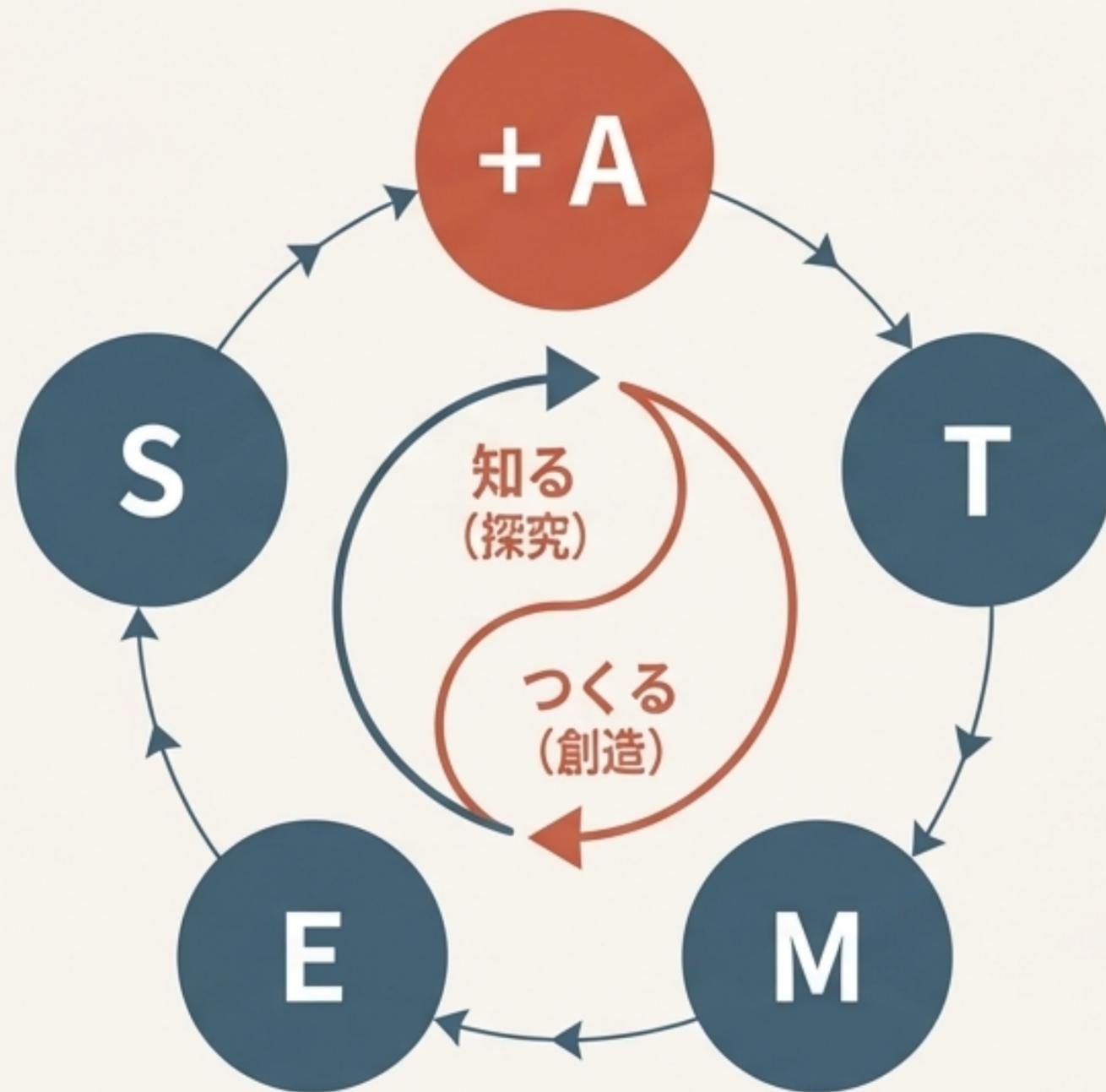


かつてリベラル・アーツの中核であった
「感性」や「創造性」を育む学び。
それは今、21世紀の複雑な課題を解決し、
イノベーションを生み出すための最重要
スキルとして再評価されています。

世界の教育・産業界のトップランナーた
ちは、分野横断的なアプローチで、こ
の人間性の育成に乗り出しています。



科学技術に「芸術・教養」を融合し、創造的な探究サイクルを生む



STEM：科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、数学（Mathematics）

+ A：芸術（Arts）、リベラル・アーツ（Liberal Arts）

目的：知る（探究）とつくる（創造）のサイクルを生み出す分野横断的な学び。異なる分野の関連性を理解し、多角的に物事を見る力を育む。

中央教育審議会：「A」を文化、経済、倫理等を含む広い範囲（Liberal Arts）で定義し、実社会での問題発見・解決に繋げる重要性を指摘。

「未来を創る当事者」を育成するための国家戦略



学びのSTEAM化

文理を問わず専門知識を習得し、探究・PBLで創造的・論理的に思考する。



学びの自律化・個別最適化

生徒一人ひとりの興味関心に応じた学習。



社会とのシームレスな連携

産業界、研究機関、地域社会と学校教育を融合する。

Core Goal: 未知の課題を発見し、解決策を見出す力を育てる。

Proof Point 3: マサチューセッツ工科大学 (MIT)

世界最高峰の理系大学が、卒業単位の25%を「人文・芸術」に充てる理由

卒業単位の25%

MIT's Philosophy

- 「技術革新が進むほど、誰の何のための技術なのか、人間理解を深める必要性がある。」
- コンピュータでは解決できない倫理や哲学の問題は、人間による解決が基本となる。

The Role of Music at MIT

- 音楽は、人間の創造性に触れ、あらゆる感情と向き合う学びを提供する。
- 「音楽は自分を知り、人を知り、世界を知ることができる。」
- 結果として、科学技術だけを優先するのではなく、バランスのよい人間性を育てている。

なぜ「音楽」なのか？ 他の教科では不可能な、感情経験の提供

哲学者 J.L.マーセルは、音楽教育の価値は、それが人間生活をより豊かに、より幸福にするために役立つ点にあると説いた。

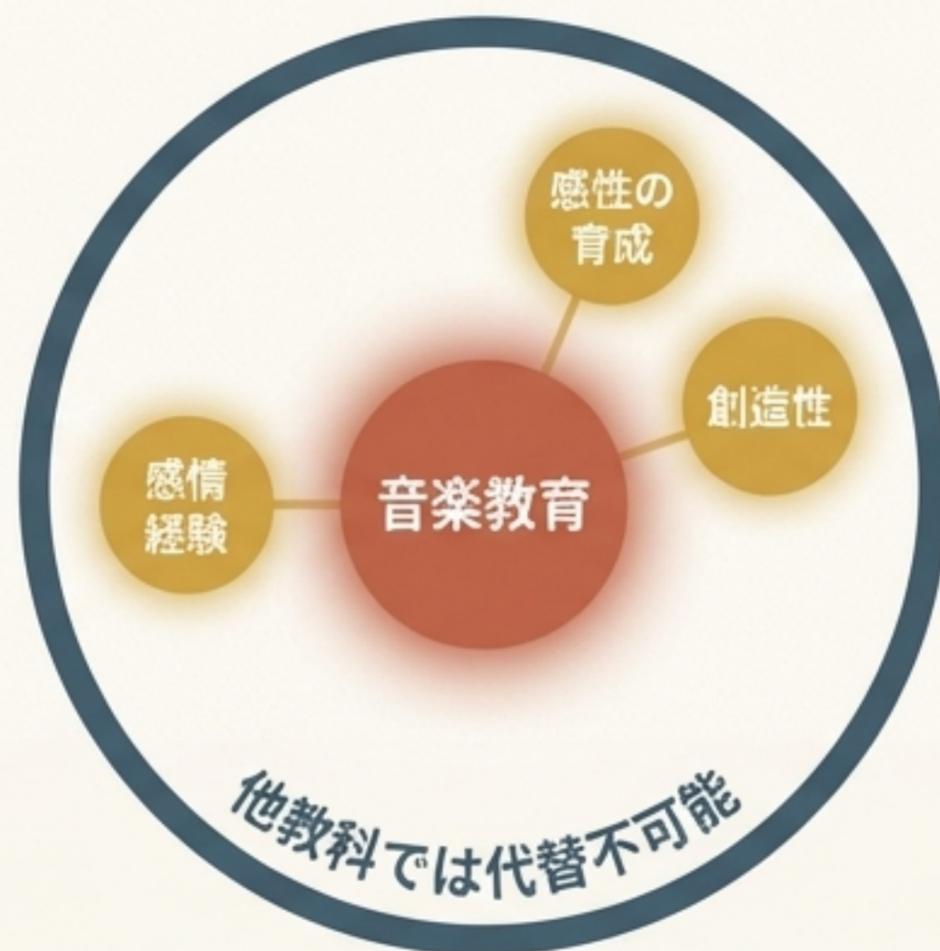
全ての感覚媒体の中で、「音」は最も感情と深く結びついている。

音楽芸術の本質は、最も純粹に感情的なものである。故に、音楽は他の手段では不可能な「感情経験の機会」を提供する。

音楽は、人生をより善いものにするために存在する

- “ 「私たちが、より幸福に、より完全に生きるために役立つものでなければ、教育的価値や意味があるとは考えられない。」 ”
- “ 「音楽は、人間の心が生み出したものであり、人間の心を表現したものである。」 ”
- “ 「音楽を通じて行われる教育は、つまり偉大な人間の感情に触れることができるということだ。」 ”

音楽教育の「独自性」：それは、他教科にはできないこと



必要性の論拠 音楽を通じて、人々の感覚や感情を経験できること。

独自性の論拠 その経験は、他のどの教科によっても代替できないこと。

知的経験に匹敵するだけの**感情経験の機会**を子供時代に与えることは、**安定した感情と幸福な人生の基盤**となる。そして、その機会を**最も豊かに提供できるのが音楽**である。(Mursell)

教室における実践：知識のための知識 ではなく、感情を感得するために

Mursellのアプローチ

歌唱：技術よりも、歌の情緒と魅力を感じ、感情を表現・開放することを第一とする。

創作：「伝えたいことがある」という衝動から、音で感情を表現する体験を重視する。

鑑賞：作曲家や年代などの知識は、音楽を理解してその感情を感得するための「助け」として学ぶべきであり、知識そのものが目的であってはならない。

音楽の勉強は、それが純粋な感情経験となるにしたがって、教育的価値が増す。



教育者の使命：未来と社会に繋がる「創造力」を育む

音楽の価値と意義を深く理解し、子供を音楽的に導く社会的指導性を持つ。

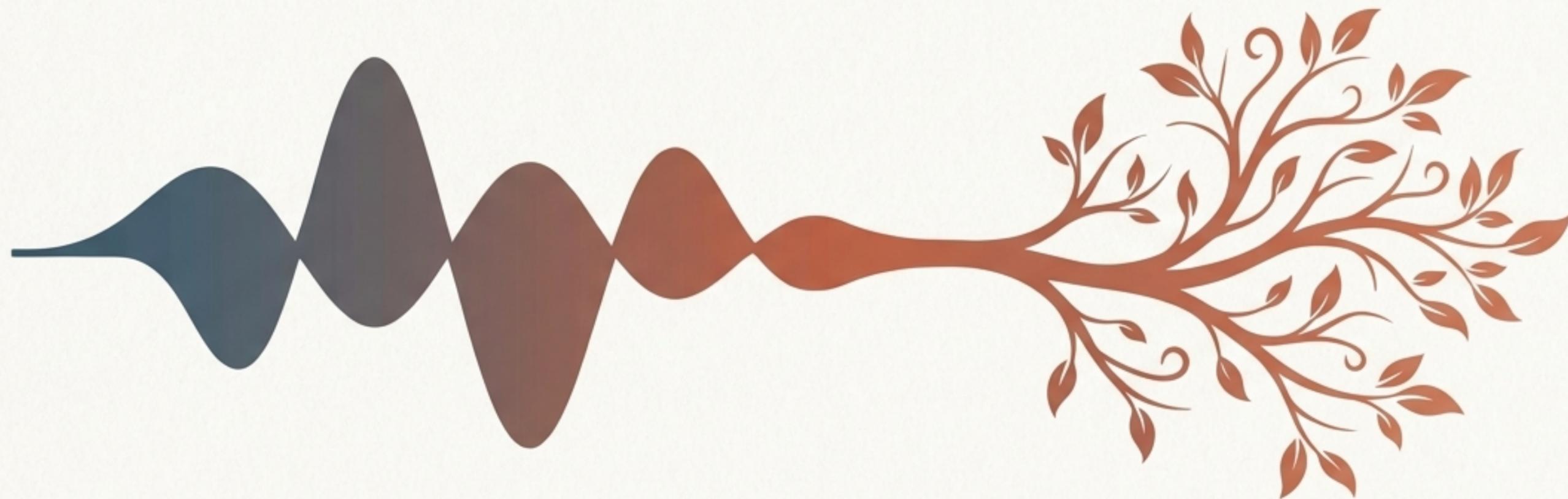
「今行っている音楽活動が、子供自身の生活や社会、今後の人生とどう結び付くのか」という視点を常に持つ。

音楽だからこそ育成できる創造力を、子供が主体的に関わる中でどう育てていくかをデザインする。



創造性を育む教科を教えるには、教員自身の**創造性**が試される。
私たちは、新しい時代を創造しリードしていく使命を担っている。

音楽は、未来を創る「人間力」そのものである。



感性を磨き、創造性を解き放ち、人と繋がり、調和を生み出す。
音楽教育は、予測困難な時代を生き抜くための最も根源的な力を育む。
それは、より善い社会と未来を築くための、**私たち全員のミッション**です。